

水辺の生きものの調査などの実施事例

・落合川での様々な活動事例

2025年9月9日

水辺の生きものの調査の現地研修会

落合川の変遷と川の生き物

画像：落合川は終着点で黒目川と合流している写真。
黒目川は埼玉県新座市・朝霞市で、新河岸川と合流し、
荒川・隅田川へ流れます。

新河岸川水系水環境連絡会
菅谷 輝美



1975年（昭和50年）9月19日 落合川毘沙門橋

550年
9/19(金)

落合川へのコイ放流

毘沙門橋付近
(環境監視委員8名参加)



FUJICOLOR CSD 75



FUJICOLOR CSD 75



FUJICOLOR CSD 75



FUJICOLOR CSD 75

昭和50年代の落合川は生活排水等の下水が流れ河川は汚染されていた。
東久留米市による、ユスリカ対策のため、河川汚濁に生息できる「コイ」を放流。
毘沙門橋上流域は昔は「弁天川」と呼ばれていた。
毘沙門橋の上流落合川の右岸から南沢湧水が流入してる。

南沢湧水



氷川神社の前を流れる南沢湧水は、源頭部に東京都水道局の南沢給水所が隣接し、そこから汲み上げられた地下水を都東村山浄水場へ送り、荒川・多摩川水系からの水もブレンドして都内の水道水として使われている。

南沢湧水には沢頭流・海老沢流・御神酒沢流れがあり落合川に注いでいる。

＊1960年（昭和35年）東久留米の市営水道施設として南沢浄水所が稼動開始、
2007年（平成19年）に東京都水道局に移管して名称は南沢給水所となる。

落合川「清流復活」活動の始まり

2回の落合川・南沢湧水の24時間水質調査 第1回1991年(平成3年)8月24日から25日結果報告

はたる通信

第 16 号

1991年 9 月 20 日

●発行 東久留米・ホテルを呼びもどす会
〒203 東京都東久留米市南沢3-13-26 菅谷輝美気付

(24時間調査)

落合川も清流になれる!?

菅谷輝美

8月24日(土) 正午～25日(日) 正午

24時間水質調査は、8月24日～25日にかけて行った。

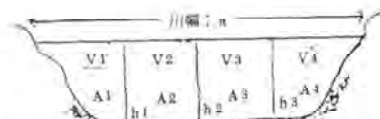
南沢氷川神社を拠点に、神社のすぐ前の湧水と神社裏の落合川の1日を知らうというものである。

バックテストによるCO D, アンモニア、亜硝酸、電気伝導率と気温、水温、流量を測定する。

24日午前10時、神社に集合、試薬、器具の点検と打合せを済せ、正午1回目の調査開始。2時間毎に測定され記録していく作業が始まった。今回一つの試みとして、10mのヒモを

流れに添って張り、ピンポン玉を放す、ピンポン玉が10mのヒモを何秒で流れるかでその川の流量を算出しようとするものである(下図)。作業が続けられていくうちに、手準備れスムーズに調査は続けられる。夜の10時頃までは7～8人の会員が参加していたが、徹夜組は5人になった。無理のないように交替で仮眠を取りながら測定するように打合せであったが、時間になるとやはり気になり全員で川へ向かう。やはりチームワークの良さが眠気を吹き飛ばすのだろうか。難所の朝4時も乗りきった。6時、朝の光りの中、川

流量の求め方



流量 Q ($m^3/秒$) = 断面積 A (m^2) \times 流速 V ($m/秒$)

$$Q = A1 \times V1 + A2 \times V2 + A3 \times V3 + A4 \times V4$$

断面積 A (m^2) = $a \times h$

川 幅 a (m)

$$A = a \times h = a \times (h1 + h2 + h3 + h4)$$

の流れがとても澄んで見える。きれいだ、測定数値が証明してくれる。湧水に最も近い数字が記録された。下水道が完備され生活排水が流入しない落合川は子ども達が保足で入れる川になり得る、そして湧水を絶たなければ流量も南沢湧水と同じ水量が確保される。つまり生活排水が落合川の流量の一部とされて

15人が参加、最終測定では湧水と落合川の合流地点である毘沙門橋の下流での測定も追加、24時間調査は終了した。合流点では湧水の流れ出る方にデブらハヤが群れており、橋の上からも容易に観察された。

機会があれば早朝の落合川を見ていただきたい。落合川にカワニナが生息出来れば、ホ

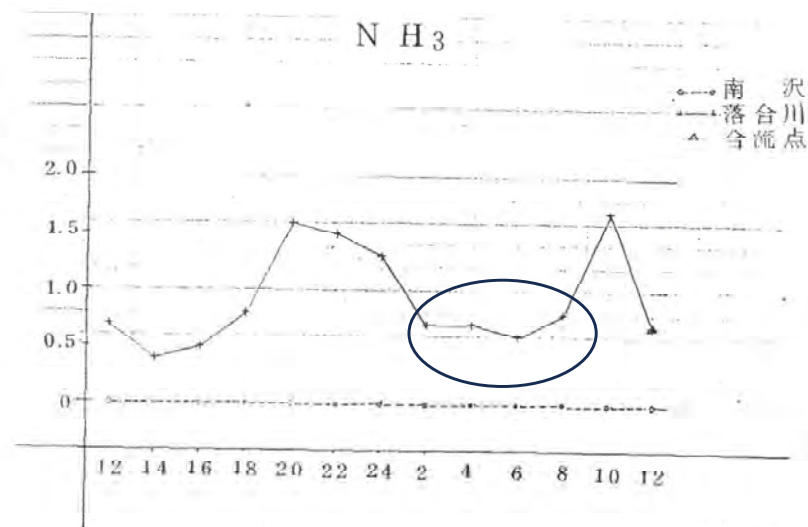
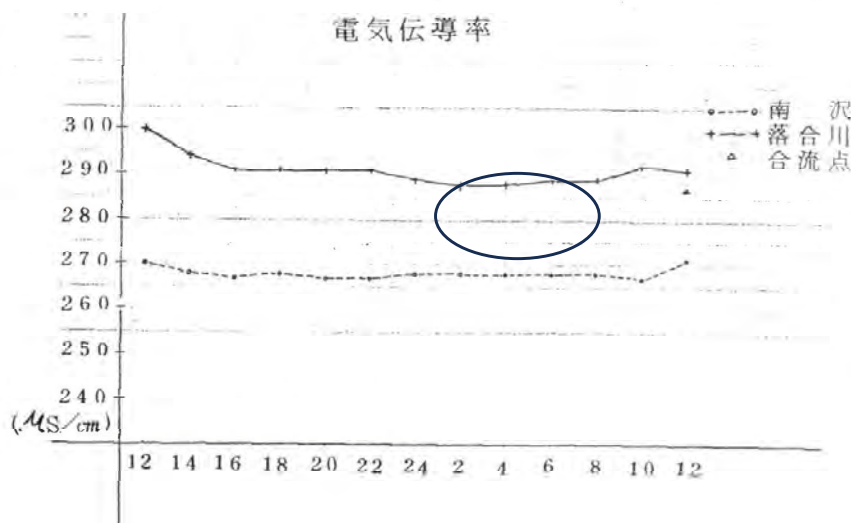
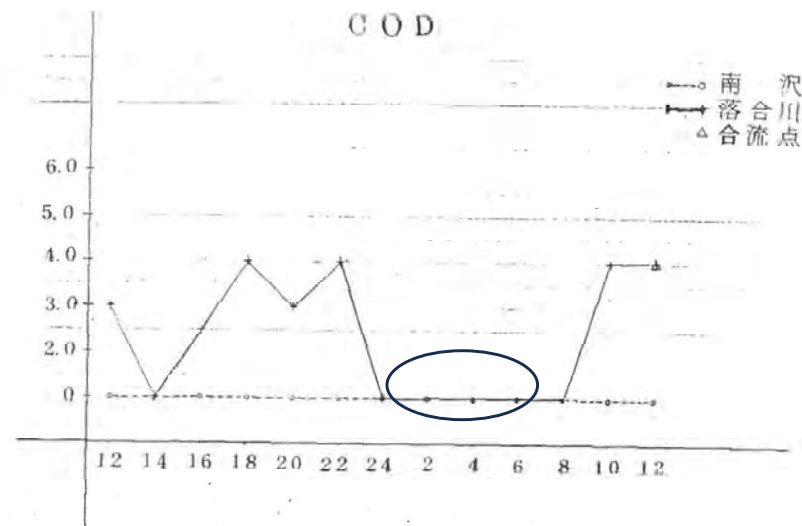
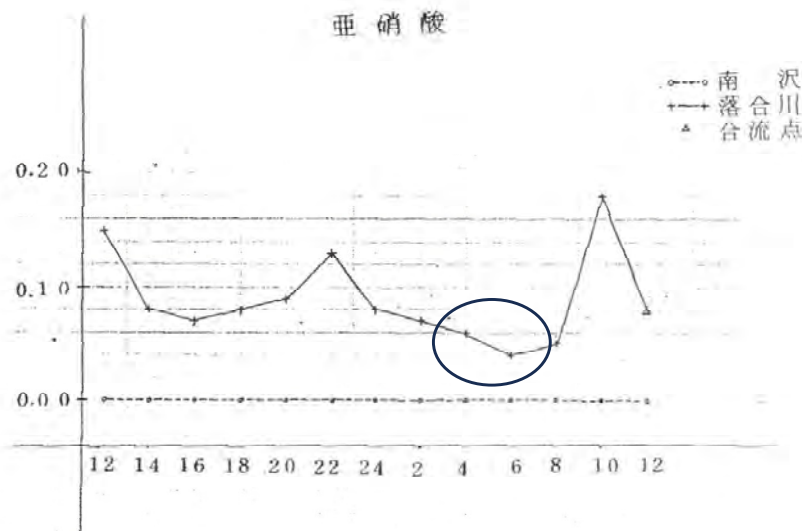
		8/24 12:00	14:00	16:00	18:00	20:00	22:00	24:00	8/25 2:00	4:00	6:00	8:00	10:00	12:00
落 合 川	COD	3	0	25	40	30	40	0	0	0	0	0	4	4
	アンモニア	0.7	0.40	0.5	0.8	1.6	1.5	1.3	0.7	0.7	0.6	0.8	1.7	0.7
	亜硝酸	0.15	0.08	0.07	0.08	0.09	0.13	0.08	0.07	0.06	0.04	0.05	0.18	0.08
	電伝導	30 MS/cm	29.4	29.1	29.1	29.1	29.1	28.9	28.8	28.8	28.9	28.9	29.2	29.1
	気温	25.0℃	26.0	23.2	22.0	20.2	20.2	21.6	20.2	18.5	17.0	24.5	24.8	29.7
	水温	18.8℃	18.6	18.4	17.8	17.5	17.5	17.6	17.3	17.0	16.9	17.7	18.7	19.4
	流 量	0.35m ³ /S 1260 L/時(14:00測定) (6:00も測定値)							0.44 m ³ /S 1584 L/時(11:00測定)					
南 沢 湧 水	COD	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	アンモニア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	亜硝酸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	電伝導	270 MS/cm	268	267	268	267	267	268	268	268	268	268	267	271
	気温	21.8℃	26.0	22.7	21.2	19.8	18.8	20.5	18.2	18.1	17.5	22.0	23.2	26.8
	水温	16.8℃	16.8	16.6	16.3	16.3	16.3	16.2	16.2	16.2	16.2	16.2	16.8	17.0
	流 量	0.35m ³ /S 1260 L/時(14:00測定) (6:00も測定値)							0.23m ³ /S 828 L/時(11:00測定)					

この2回の24時間水質調査は南沢氷川神社社務所を測定会場として、神社前を流れる南沢湧水と神社裏を流れる落合川を市民環境科学を提唱した、小倉紀雄先生のアドバスを受けて、バック試薬にて実施。

* ホテルを呼び戻す会は1986年12月より活動開始
「ホテル通信」は1987年1月に創刊号を発行。

落合川・南沢湧水の24時間水質調査

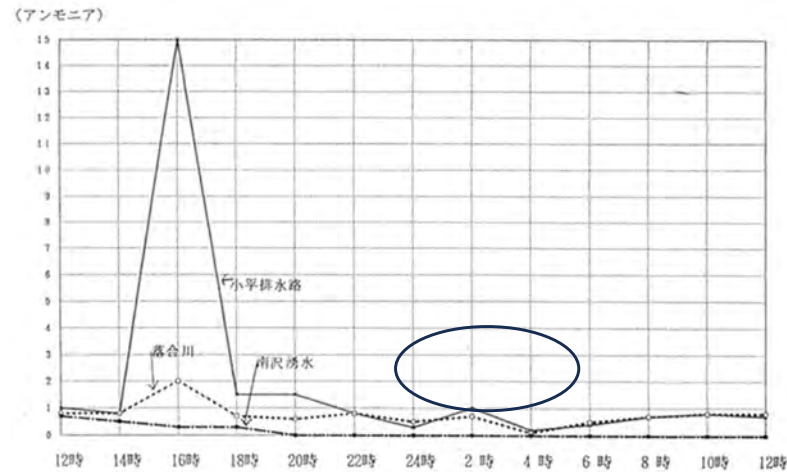
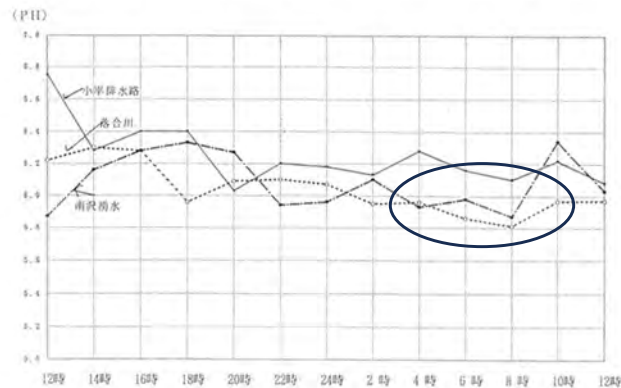
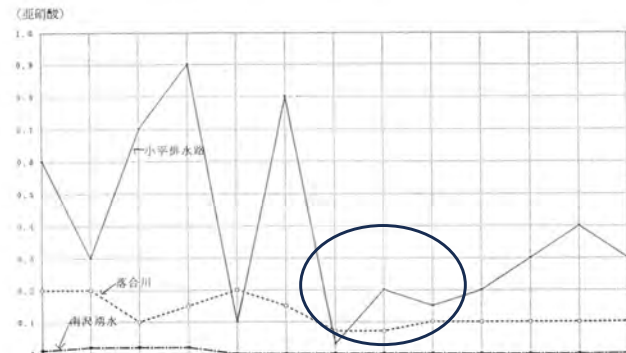
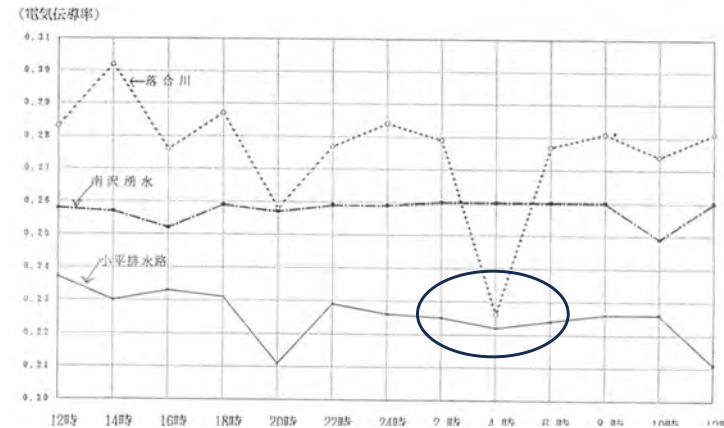
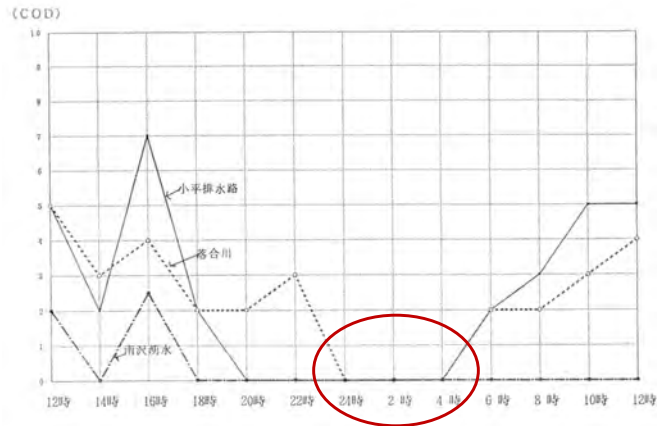
第1回 1991年（平成3年）8月24日から25日,24時間の水質変化グラフ



ホタル通信第16号1991年9月20日発行より

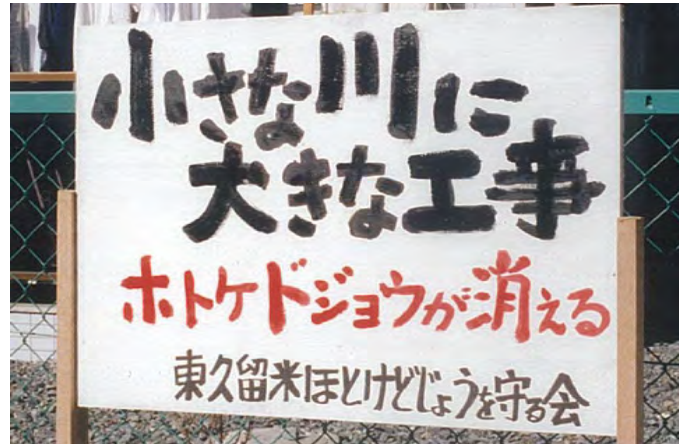
落合川・南沢湧水・小平排水路（黒目川支流）の第2回24時間水質調査 1992年（平成4年）8月29日から30日結果

ホタル通信第18号1993年1月20日発行より



2年とも、特にCOD値は深夜・朝方で、落合川は南沢湧水と同じ値となった。

1990年（平成2年）整備前の落合川の源流域



落合川源流から毘沙門橋迄まで直線化する、河川整備計画工事の始まり。

落合川源流域河川整備へ「多自然型川づくり」を提案

落合川の河川改修工事について

小林 唯夫

私達が住む、東久留米の市内を流れる、代表的な川として、黒目川と落合川の二つを持っていますが、とりわけ落合川は、豊かな湧水に恵まれ、小さな自然を沢山残した、魅力溢れる美しい川であり、市民が誇る貴重な財産でもあります。

この落合川の毘沙門橋より上流部の未改修区間には、現在でも、ホトケドジョウやアブラハヤの湧水魚類の他、ミクリ、ミズニラ等の水生植物、又岸辺の木陰にはタニギキョウという、市街地の中では、観られない貴重な野草の生存も、確認されています。

東京都では、ことしの11月頃を目指し、落合川の最上流部である、小金井街道から、源流点までの200mの改修工事を予定しています。

これに伴い、今年の2月「東久留米ほとけどじょうを守る会」が発足し、この会には、菅谷会長が世話人として加わり、会の活動を積極的に推進してきました。

ほとけどじょうを守る会の活動経緯は以下の通りです。

1. 2月、東久留米ほとけどじょうを守る会発足。
2. 6月7日、市長に要望書提出。
3. 6月7日、市議会、議長に要望書提出
4. 6月16日、都議会へ請願書の署名(9068名)を提出。
5. 7月10日、市都市計画部主催、落合川改修検討会。
6. 7月26日、市都市計画部主催、落合川改修検討会(都側4案

を提示)。

7. 8月4日、「落合川の清流復元シンポジウム」を氷川神社で行なう。
8. 8月10日、都環境保全局へ要望書提出。
9. 8月22日、ほとけどじょうを守る会より、落合川改修に伴う代替案を提出。
10. 8月30日、市都市計画部主催、落合川改修検討会。(都側修正案を提示)。

検討会での都側の説明を要約すると

- (1)①川幅9m、深さ約3mの基本的な河川形態、②約5mの深さまでのコンクリートブロック積み護岸、③両側に4mの管理道路の構造及び流路は変更できない。

この構造を決定した理由

- ①1時間当たり50mmの雨量があったとき、その雨水の80%を川へ一度に流出させるために必要な大きさである。

- ②今回改修予定区域(源流付近から小金井街道まで)が受け持つ雨水を排水する流域は約2.48km²(南町1〜4丁目、前沢1、2、3、5丁目、滝山3丁目、弥生1、2丁目、小平市花小金井2〜5丁目、及び八幡町2、3丁目の一部)であり、弁天橋付近で1秒当り40m³の水を流せる構造が必要であるため。(図一①参照)

また、これらの数値は「河川構造設計物基準」に基づいて行っており、変更する考えはない。

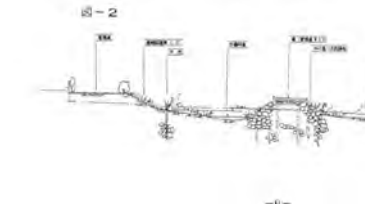
(2)計画に基づいて必要な河川形態を作る「河道対策」が「都」の仕事であり、雨水統廃等の「流域対策」は「市」の仕事であるため、「都」が行なう業務の範囲では、一部河川幅の広いところで貴重な生物を保存する方法を市民と考えるだけで、その他のところは、河川形態に変更の余地はない。

また、「市」は、「市」の仕事である「流域対策」について、現在は下水下水道工事を精力的に進めているところであり、これが終わってから改修工事を予定している。これに対して、私達は次の様に主張してき

た。

- (1)現在市で検討されている雨水排水計画では、南沢、前沢、滝山3丁目、弥生、小平市花小金井の雨水は、小金井街道に管渠を埋め、弁天橋付近で落合川に入れることになっており、今回改修予定区域の負荷とはならないので、都の提案のような大きな断面の整備は必要ない。

- (2)雨水地下浸透力等の流域対策を出が提案し、総合治水対策の中に位置付け、早期に実施することにより「清流のある落合川」にすることが必要である。



「ほとけどじょうを守る会」では、多自然型河川工法の「河川」に基本設計をお願いし、これを代替案(図一②)として、8月22日東京都に提出した。

修正案は一部前進であったが、それでも湧水は損われてしまう

又、この案を基にして、相手方、担当者とも具体的な検討を行ない、鋭意努力をしてきました。

その結果、8月30日、都は(図一③)の修正案を検討会の中で提示してきた。

その内容と要旨は次の通りです。

- (1)治水地区には手を入れないが、4mの管理道路は、基本計画通り、内側に設ける。又、治水地区の管理道路の基礎護岸は、自然石による石積みとし、土留の流出を防止するため、吸出防止材を使用する。

- (2)治水地区以外の両岸は、基本計画通り、コ

ンクリートブロック積み護岸とするが、深さについては、約5mのコンクリート護岸から、2mのコンクリート護岸に修正をした。

- (3)流域面積は、2.48km²の基本計画を変更し、0.2km²に修正をした。

(4)流域面積の修正に伴い、流量が大幅に削減されたため、河床の深さを当初3mで設計したが、これを1.1mの幅員にした。

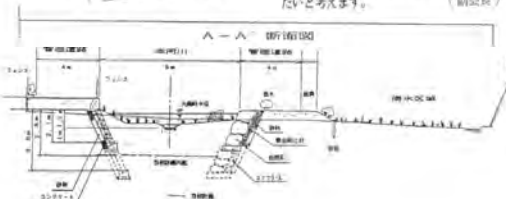
以上の修正の修正案は、「清流のある落合川」にするための一歩前進ではあったが、治水地区以外の両岸は、従来として、コンクリートブロック護岸であり、もしこのまま工事を施工すれば、落合川の治水は、完全に枯れてしまうことは明らかです。

なぜなら、都が実施してきた、改修事例でも治水が見つかった例は、少ないとのこと。又、治水地区の管理道路の基礎護岸には、吸出防止材を使用しているが、既設の工事、事例からも、土留の流出により、網目が詰まり、治水機能の維持が、河川への治水を止めるため、吸出防止材は一切使用しない。

以上が、今回提示された修正案への要望です。

これから、広い視野から、柔軟な発想を持って、都側と粘り強く交渉を継続して行きたいと考えます。

(副会長)



落合川源流域はホトケドジョウが生息しており、保全のため都へ河床掘削を浅くする整備を提案。



源流は河床を埋め戻し、浅い流れの川となり、ホトケドジョウの生息を確認

1994年(平成6年)1994年3月河川整備後落合川の源流湧水

残りは氷川神社裏の落合川の河畔林保全？



源流域の整備は終わったが、下流の毘沙門門橋まで整備は南沢氷川神社の河畔林の保全策が出るまで中断した。河川整備は中断したが、検討の話し合いの場「川の交流会」は10年以上の歳月をかけた。

■きょう市民が、東久留米・落合川で川遊びを復活させます。

フェンス外し子供に開放

川を開いているフェンスをはずし、中に入るといふ催しが十日の日曜日、東久留米市の落合川で開かれる。普段、フェンス越しに眺めるだけの自然の宝庫に足を浸して、ごみを拾い、都会では忘れられた川遊びも復活させる、という。

■の住宅地を縫い、延長三・落合川は、東久留米市内 四*ある。川底から豊富な

わき水があり、都内では珍しいホトケドジョウやアブラハヤ、クチボソなどの魚、ミクリ、ミズナなど

の沈水植物が生息する。一九七二年から河川改修工事が進められ、黒沙門橋から黒目川合流地点までの約二にわたり、高さ一・三メートルの網フェンスが両岸を囲っている。

■ 十日の催しを企画したのは、東久留米はとけどじょうを守る会と東久留米・ホテルを呼びもとす会。昨年、市が主催した河川フォーラムで、参加者から「フェンスが川と市民を隔てているのではないか」との意見が出され、会で検討してきた。ホテルの会会長の菅谷輝美さん(会)は「フェンスがなくても、危険でない場所があると思う。一度、試しはしてみよう」とい



フェンスで囲われた落合川＝東久留米市本町1丁目

ろことになった」と話す。

■ 川の護岸工事では近年、階段状や緩やかな傾斜のものがつくられるなど、水に近づける「親水性」が考慮

されてきた。落合川を管理に階段が設けられている。十日する都北多摩北部建設事務所の高橋久志工事第二課長は「事故があった場合の管理責任のことがあり、特に住宅地の河川のフェンスの問題は難しい。ただ、川に下りられる場所をつくることを検討している」とい

■ 午前十時に不動橋広場に集まる。参加費無料。

落合川工事中断の期間では、「清流復元シンポ」の開催を実施し、都との「川の交流会」は継続した。交流会でフェンスを一時的に開け、川で親しめる「イベント・川遊び」を始める事が都と合意された。この「フェンスを外すイベント」が、「いこいの水辺」への創出と河畔林の保全に繋がっていった。

1994年(平成6年)7月「落合川の川遊び」 「第1回わくわく川掃除&川遊び」となる。



第一回



第三回



翌年から、わくわく川掃除&川遊びは、規模が段々大きく成って行った。

2025年(令和7年)7月27日 黒目川「第32回わくわく川掃除&川あそび」



水辺を市民と行政連携で創出した水辺空間。 河川残地を利用した「落合いこいの水辺」

ほたる通信

第 24 号

1997年 3月 20日

●発行 東久留米・ホタルを呼びもどす会

〒203 東京都東久留米市南沢3-13-26 菅谷輝美気付

電話 0424-72-0882



ミズガキと会話

4月初旬に、落合川の「いこいの水辺整備工事」が終わり、左岸は傾斜が緩くなり、直接水辺にふれる場が毘沙門橋から老松橋の間にできます。

今までフェンス越しに川を見ていましたが、わずかな距離ですが川に降りて水辺の散策ができます。そうすると、直接上流から流れてくるゴミや対岸のゴミが気になるといいます。ミズガキが水辺を訪れたとき、「川を汚れているのはだれ？なんで汚れているの？どうして他の場所にはまだフェンスがあり川に近づくことができないの？」と川を見ながら話してください。また新しい工夫をみんなで考えていきましょう。

東久留米 ほとけどじょう通信	第 30 号 平成9年 3月16日
発行 東久留米ほとけどじょうを守る会 代表 東久留米市南沢3-6-7 渡部 卓 ☎0424-74-7206	

落合川親水化工事進行中

落合川環境整備事業として、毘沙門橋（南沢通りと落合川の交点）から下流で、左岸側（下流に向かって左側）の工事が進んでいます。今年の夏前には、約100mにわたってフェンスがとられ、ゆるやかな土手から川に下りられるようになります。引き続き、右岸側の工事は続けられる予定です。両側が完成するのは、平成10年になるでしょう。

私たちは、子供たちが、この豊かできれいな水の落合川で遊びながら大きくなれば、おのずと、自然のすばらしさ、環境の大切さがわかり、東久留米の郷土の環境をいかしたまちづくりへと関心が高まることを期待しています。

その意味から、このすばらしい環境が残せるように、これを機会に、この区域を「クリーンゾーン」として、子供たちと川で遊びながら、川掃除もして、湧水の豊かなまちづくりへの提言をこれからしていきたいと考えています。



1991年2月に発足した「ほとけどじょうを守る会」と一緒に活動した。後にホタル会とほとけどじょうの会のメンバーが「川クラブ」の設立に参画し、現在、小学校等の川の体験学習に携わっている。

「いこいの水辺整備」の様子



1996年に「いこいの水辺整備事業」がはじまりました。整備については、計画当初から「川の交流会」で検討されました。蛇行河川を直線整備した為、残地が残されていた所を整備し、護岸を壊し、傾斜護岸とする整備計画が合意されました。川の流れが住宅地に隣接する為に隠し護岸とされました

落合川の「いこいの水辺」完成



1997年(平成9年)5月「多自然型川づくり」により、落合川「いこいの水辺の完成」

同時に「落合川・いこいの水辺ボランティア」が結成され、後に「川塾」が始まった。

- ・ 建設省より1990年(平成2年)「多自然型川づくり」を通達。
- ・ 国土交通省にて2006年(平成18年)「多自然川づくり」指針となる。
- ・ 国土交通省より2010年(平成22年)「中小河川に関する河道計画の技術基準」策定。

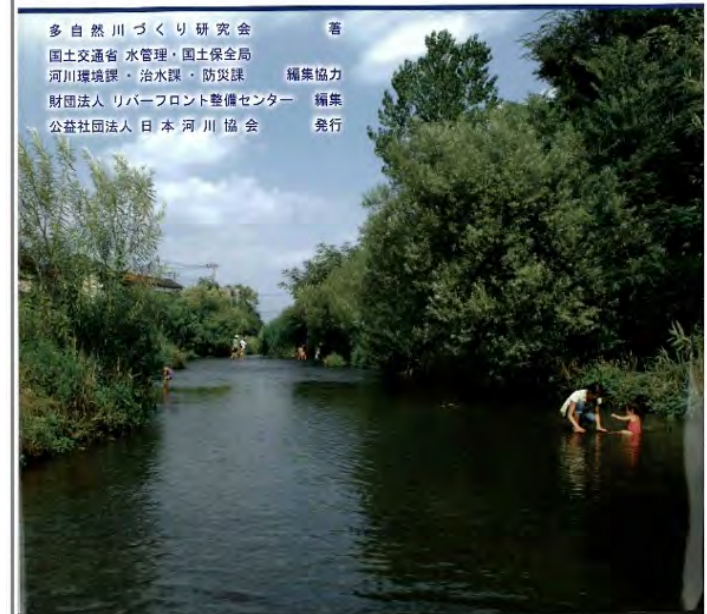
多自然川づくりポイントブックⅢ

川の営みを活かした川づくり

～河道計画の基本から水際部の設計まで～

「中小河川に関する河道計画の技術基準」の解説

多自然川づくり研究会 著
国土交通省 水管理・国土保全局
河川環境課・治水課・防災課 編集協力
財団法人 リバーフロント整備センター 編集
公益社団法人 日本河川協会 発行



多自然川づくりポイントブックⅢ

編集：多自然川づくり研究会

発行：(財)リバーフロント整備センター

2011年(平成23年)10月発行

*ポイントブックⅢの表紙は。

「落合川いこいの水辺」です。

川 塾



かわじゆく
『川塾』で川のこと
体感してみませんか！

日時 毎月第3土曜日午後1時から
場所 落合川（いこいの水辺）

落合川 毘沙門橋下流 200m

● 魚類調査（手網で魚を捕獲し種類の調査をします）



どんな魚がいるかな？



● 水量、水質調査

落合川の水量や温度、水質もしらべる



● 水生生物調査

小さい網で魚が食べるカゲロウの幼虫（水生生物）をさがそう



いこいの水辺で川塾は2005年より毎月第三土曜日午後1時より冬の時期を除き開催 18

川塾における魚類調査(2005. 12~2024.6)

		2005年	2006年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年		2024年
		計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	3月20日	計	計	4月20日	6月15日	計
1	アブラハヤ	99	131	130	150	130	130	88	68	82	64	29	17	5	7	11	1		1
2	タカハヤ	29	63	100	188	137	187	120	118	69	39	47	24	3	3	0			0
3	オイカワ	12	2	36	35	11	5	24	30	15	14	20	0		0	0	5		5
4	ホトケドジョウ	7	33	18	13	18	1	3	6	3	2	0	0		0	0			0
5	ドジョウ	2	1	2	1	4	2	0	0	1	0	0	0		1	0			0
6	タモロコ	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		0	0			0
7	モツゴ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0			0
8	メダカ	14	2	2	0	4	0	0	0	0	1	0	0		0	1			0
9	カワムツ	1	0	25	27	32	48	14	42	25	24	40	27	25	42	70		50	50
10	ギンブナ	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0		0	0			0
12	ジュズカケハゼ	1	1	45	23	21	40	21	46	36	34	12	7		1	2			0
13	シマドジョウ	0	1	54	37	84	77	24	33	33	24	13	4		0	2		2	2
14	アユ	0	0	20	7	5	13	0	0	0	0	5	0		0	0			0
15	コイ	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0		0	0			0
16	カワヨシノボリ	0	0	0	0	2	1	0	3	0	1	25	30	7	25	60	多数	20	20
17	ドンコ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	42	35		3	0	2	2	4
18		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0			0
19		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0			0
	合計	168	237	432	481	450	504	294	346	264	203	233	145	40	82	146	8	74	82
	カワリヌマエビ	0	0	1	13	120	87	101	40	14	多数	多数	多数	多数	多数	多数	多数	多数	多数

* アブラハヤ・タカハヤ・シマドジョウ・ジュズカケハゼは数は減っているがコンスタントに出現している。

* ホトケドジョウは少ないながらもずっと出現していたが2018年3月を最後に見られなくなった。

* カワムツは前からいたが、近年急に増加している。

* カワヨシノボリは2018年まではほとんど見られなかったが、2019年頃から急に増加している。

* ドンコは2019年から出現しているが近年少なくなる傾向。

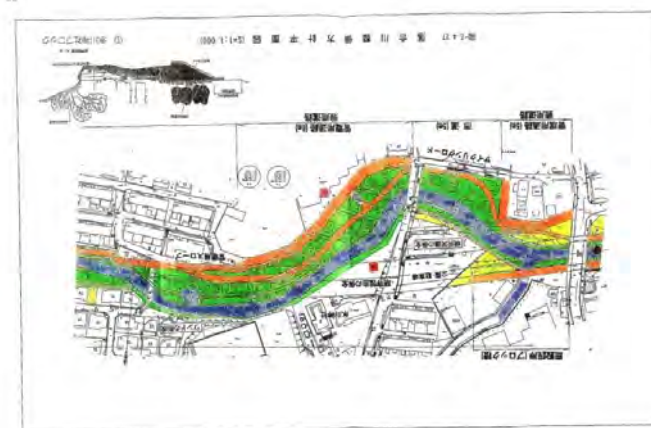
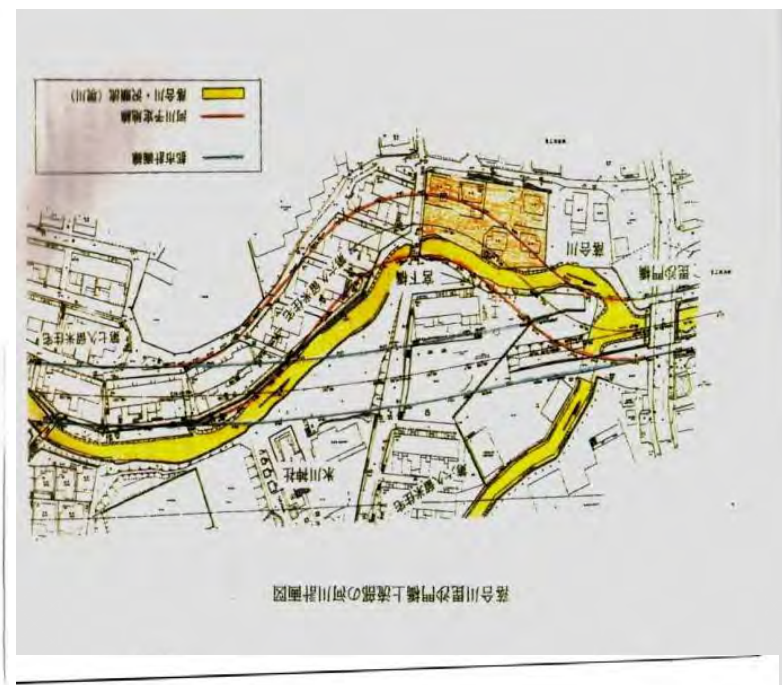
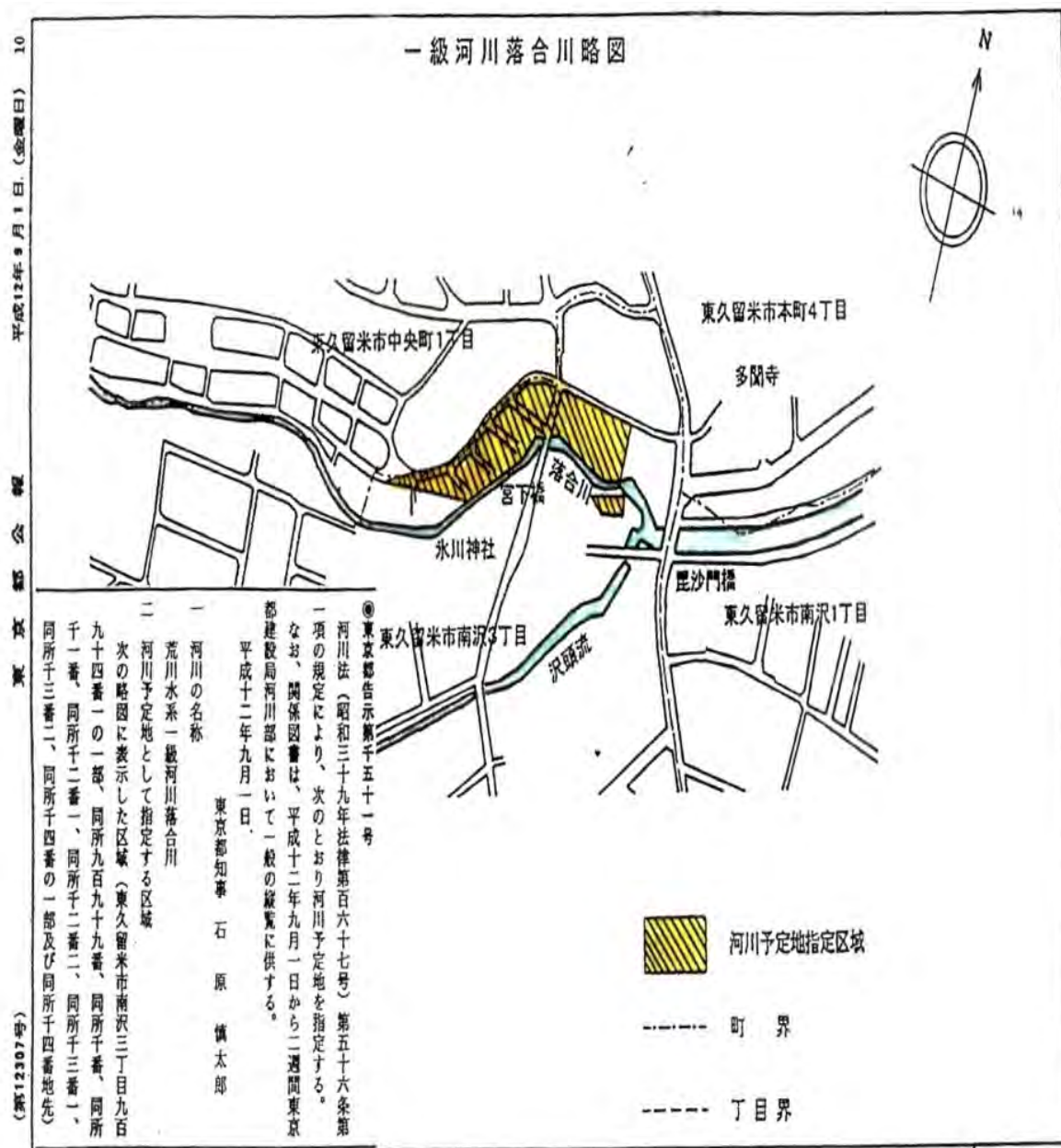
落合川・いこいの水辺での小学生の 川の体験（探求の時間）学習の様子



東久留米の落合川・黒目川では毎年小学生4・5年生の川での授業が、
年間10回以上行われている。

落合川南沢氷川神社の裏の河畔林の保全決定

**いこいの水完成後、2000年（平成12年）9月落合川河川予定地が拡大指定された。
東京都知事石原慎太郎名で9月1日付で告示された。**



南沢氷川神社の裏の落合川の河畔林の河川整備には、世代を超えた多様な意見の交換交流と、現場での調整も実施。



河畔林の保全が決まり落合川の中流部（神明地区）の整備が再開され、計画段階で直線整備化で旧河川の廃河川計画も交流会の中で保全も決まりました。

工事に先駆け現地での東京都との話し合いもしました。

落合川源流域から下流域への河川整備が再開



源流域の下流の神明地区の南神明橋Ⅱは「川の無い橋」となり残されて。中断していた、下流域区間整備は南沢氷川神社の河畔林保全計画の決定後に多自然型川づくりで、2001年(平成14年)から再開された。



落合川の河畔林保全整備完了



東京都落合川の河川整備平成17年2006年3月完成直後と 8ヶ月後の景観
右岸に保全された河畔林、左岸に高水敷の中を湧き水が流れる落合川。
この整備には約16年の歳月の河川行政と市民の交流があった。

タコノアシ出現



河川整備で、現れた左岸の高水敷に、埋没していた「タコノアシ」が出現した。現在も大切に保全されている。



氷川神社裏の落合川の河畔林が残された流れに復活した「ミズニラ」と「ミクリ」

落合川の「ミズニラ」





『平成の名水百選』は平成20年6月5日、全国各地の湧水、河川、用水、地下水の中から100ヵ所選ばれました。

（選定基準）

昭和60年に『名水百選』が選定され、この言わば「昭和の名水百選」から20年以上が経過していることから、周辺状況が変化している可能性があります。

環境省では社会情勢の変化も踏まえ、水環境保全の一層の推進を図ることを目的に、地域の生活に溶け込んでいる清澄な水の水環境のなかで、特に、地域住民等による主体的かつ持続的な水環境の保全活動が行われているものを、現在の「名水百選」（昭和の名水百選）に加え、「平成の名水百選」として選定を行い、併せて200選となりました。

なお、飲用に適することを保証するものではありませんので、飲用に供される場合は、その名水が所在する自治体にご確認ください。

由来・歴史

落合川上流は、昔は弁天川と呼ばれ、湧水も多く、周辺には幾つかの水の神様でもある弁天様が祭られていた。弁天橋は今でも小金井街道に架かって橋の名である。現存する弁天様の祠が少なくとも5箇所には残っており、折々に花などが飾ってある。（「地誌ふるさと東久留米」東久留米市郷土研究会編参考）

水質保全活動

約20年前からホタルやホトケドジョウに注目して始まった落合川の保全活動が発展し「いこいの水辺」「氷川神社裏の自然河川」「水辺公園」などが生まれた。

最大のイベント「わくわく川掃除&川あそび」は、ついに1000名を越す子どもたちが集まる規模となって、東久留米市の夏の風物詩となりつつある。

2010年（平成22年）12月17日 湧水保全フォーラム全国大会inひがしくるめ開催



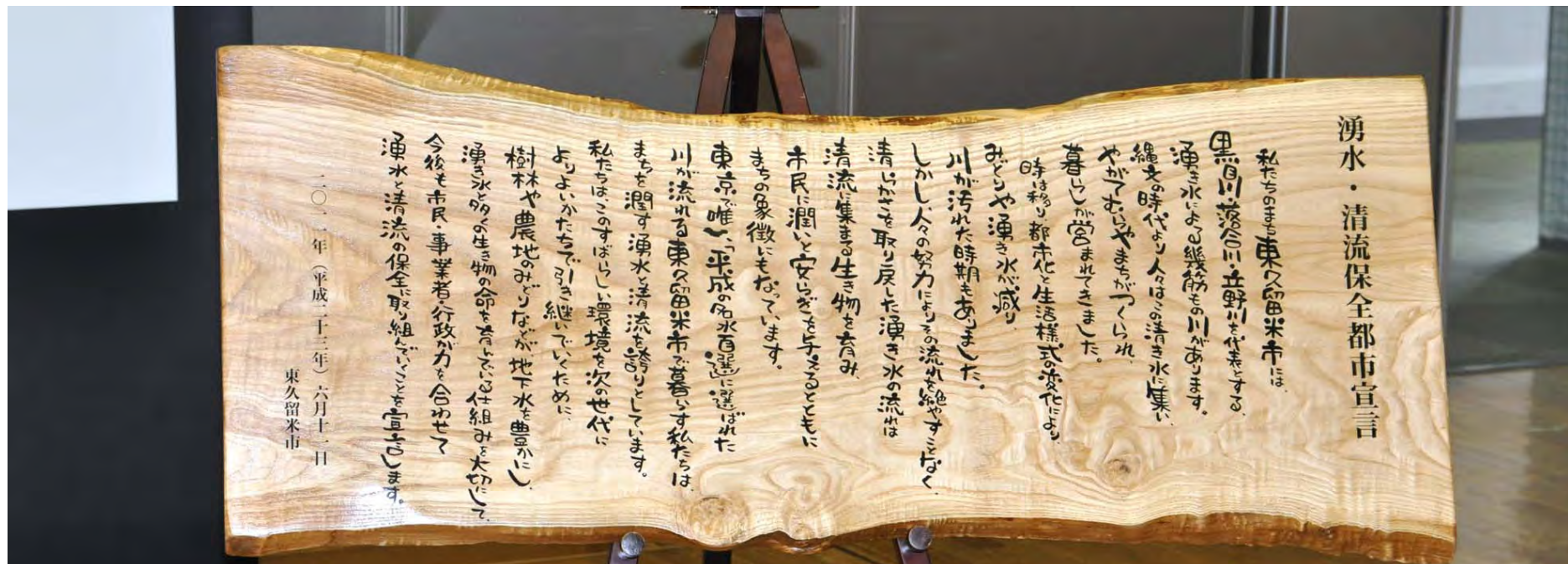
2011年(平成23年)6月11日 「湧水・清流保全都市宣言」

湧水・清流保全都市宣言

私たちのまち東久留米市には、黒目川・落合川・立野川を代表とする、湧き水による幾筋もの川があります。縄文の時代より人々はこの清き水に集い、やがてむらやまちがつくられ、暮らしが営まれてきました。時は移り、都市化と生活様式の変化により、みどりや湧き水が減り、川が汚れた時期もありました。しかし、人々の努力によりその流れを絶やすことなく、清らかさを取り戻した湧き水の流れは清流に集まる生き物を育み、市民に潤いと安らぎを与えるとともにまちの象徴にもなっています。

東京で唯一、「平成の名水百選」に選ばれた川が流れる東久留米市で暮らす私たちは、まちを潤す湧水と清流を誇りとしています。私たちは、このすばらしい環境を次の世代によりよいかたちで引き継いでいくために、樹林や農地のみどりなどが、地下水を豊かにし、湧き水と多くの生き物の命を育んでいる仕組みを大切にして、今後も市民・事業者・行政が力を合わせて湧水と清流の保全に取り組んでいくことを宣言します。

2011年(平成23年)6月11日



黒目川、落合川で見られる川魚

名前	写真	特長
ホトケドジョウ		ドジョウ科ホトケドジョウ属 落合川、黒目川に棲んでいる。成魚で5～7cmくらい、流れが緩やかな砂底や砂泥底に棲み浮き袋があり水草の中層を泳ぐ。
シマドジョウ		ドジョウ科シマドジョウ属 落合川中流域に多く棲む。特にいこいの水辺あたりに棲む。砂礫底に生息する。体の縞模様が美しい。
ジユズカケハゼ		ハゼ科ウキゴリ属 落合川の中流域、いこいの水辺あたりに多く棲む。体は茶色味を帯び黄色の横帯が見られメスの産卵期には特に黄色の横帯が鮮やかになる。
ウキゴリ		スズキ目ハゼ科 ウキゴリとは浮いているハゼ（ゴリ）の意味。黒目川朝霞市あたりにスミ、ウキゴリ両方生息。川床に張り付くように棲んでいる。
スミウキゴリ		繁殖期にはオスメス共にサイマク、オビレが黒ずむ。メスは腹が黄色くなる。
オイカワ		コイ科オイカワ属 黒目川で一番多い魚。写真はオスで婚姻色が出ている。ヤマベ、ハエなど本州、九州などに分布。
アブラハヤ		コイ科アブラハヤ属 落合川に多く生息する。琵琶湖以西の本州に多く、山間の渓流部から平野部の水の澄んだ中流域まで生息する。
タカハヤ		コイ科アブラハヤ属 落合川に多くアブラハヤと同じ様な場所に棲む。静岡、福井以西の本州に多く落合川では以前から見られる。
カワムツB型		コイ科オイカワ属 静岡以西の本州、四国九州に棲む。ヒレが黄色味。ウロコがはっきりしている、背びれのとげ部分が赤いのが特徴。

黒目川川塾（黒目川、落合川でみられる魚）

名前	写真	特長
オイカワ		コイ科オイカワ属 黒目川で一番多い魚。写真はオスで婚姻色が出ている。ヤマベ、ハエなど本州、九州などに分布。
アブラハヤ		コイ科アブラハヤ属 落合川に多く生息、黒目川にいる種の方が黒い線が濃い。渓流部から平野部の水の澄んだ中流域まで生息。
カワムツ		コイ科アブラハヤ属 黒目川、落合川共にアブラハヤと同じ様な場所に生息し静岡、福井以西の本州に多くヒレが黄色いのが特長。
メダカ		ダツ目メダカ科 目の位置が高いので、目高。外来種のカダヤシに似ている最近少し見られるようになった。
ホトケドジョウ		ドジョウ科ホトケドジョウ属 落合川、黒目川の一部に生息成魚で5～7センチ、流れが緩やかな砂底や砂泥底に棲み浮き袋を持ち水草の中を泳ぐ。ヒゲ8本。
シマドジョウ		ドジョウ科シマドジョウ属 落合川中流域に生息。特に神明橋からいこいの水辺あたりに多い。砂礫底を好み体の縞模様が美しい。
ジユズカケハゼ		ハゼ科ウキゴリ属 シマドジョウ、ホトケドジョウと同じような所に生息。体は茶色味を帯び黄色の横帯びが見られ産卵期は特に色が濃い
カワヨシノボリ		ハゼ科ヨシノボリ属 黒目川中流域から落合川合流域に生息する。それより下流にはウキゴリやヌマチチブが生息。ここ2～3年多く見られる。
エビの仲間		スジエビ ヌカエビ シナヌカエビ類

落合川、南沢の水生生物 2009. 5. 24



トビケラのなかま



ウズムシ(プラナリア)



カワゲラのなかま



シマアメンボ



オニヤンマのヤゴ



カゲロウのなかま



カゲロウの垂成虫



イトミミズのなかま



セスジユスリカのなかま



ミズムシのなかま



ブヨのなかま



ガガンボのなかま

水生生物

シロハラコカゲロウ
の幼虫と亜成虫



トビケラの幼虫

カワゲラの幼虫



カワゲラの成虫



カゲロウの成虫



オニヤンマのヤゴ



トビケラの成虫



川塾 2009. 3. 21

落合川で採集された水生生物

トビケラのなかま



カゲロウのなかま



えびのなかま



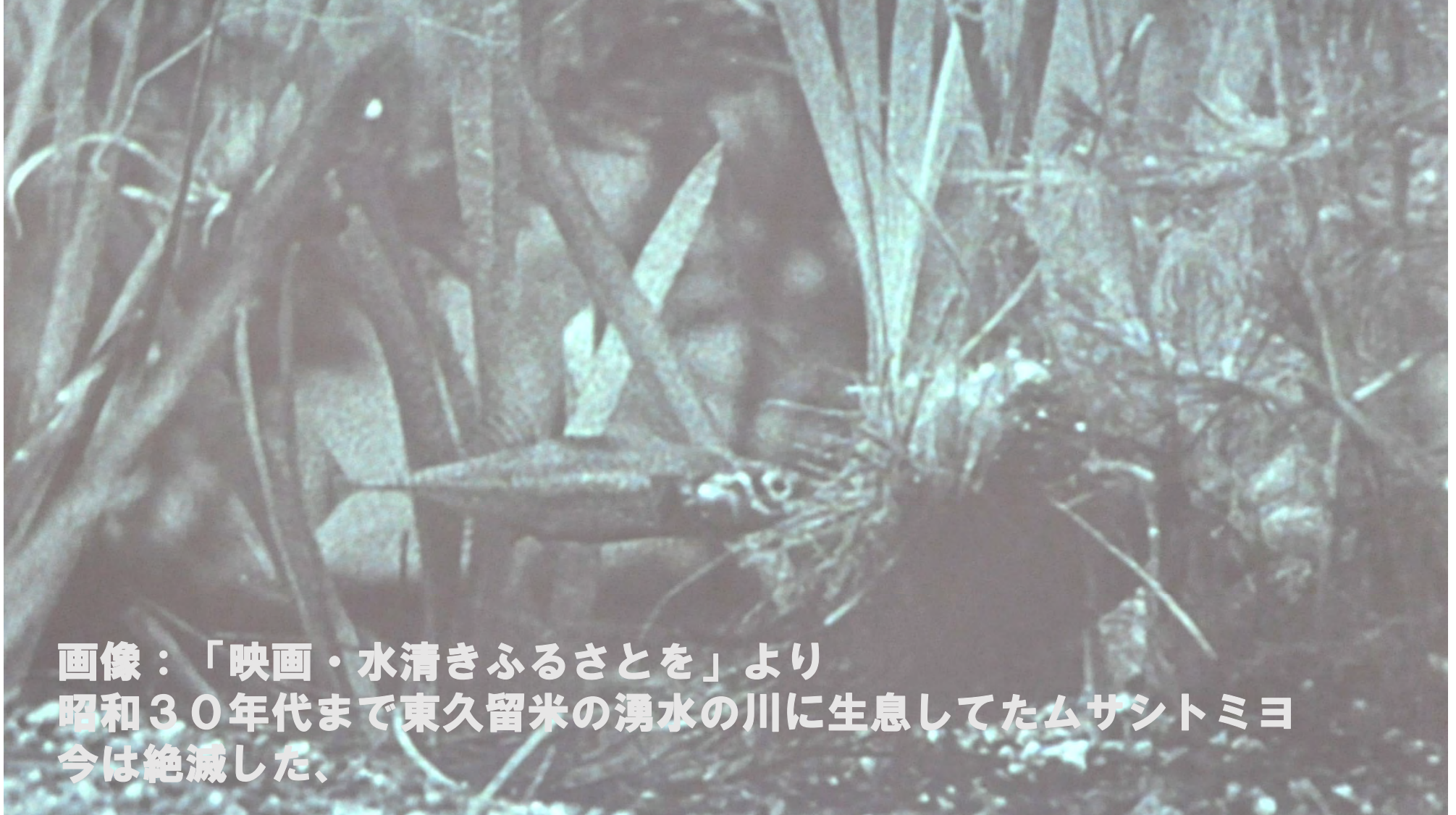
ミズムシのなかま





近年の温暖化の影響で現在、見れなくなった冬鳥の群れ

南沢の湧水に生息してた「ムサシトミヨ」
当時地元の子供たちは「トゲウオカチャン・カツオの子」と呼んでいた。



画像：「映画・水清きふるさとを」より
昭和30年代まで東久留米の湧水の川に生息してたムサシトミヨ
今は絶滅した、

＊「水清きふるさとを」は自由学園の女子学部二年生が、1964年度に取り組んだ
「立野川の浄化の研究」がテーマとなっており、1966年に映画会社 東映が中学生
の社会科「郷土」の単元向けに製作した教育映画

